

## 正誤表（達成状況評価）

88：自然科学研究機構

No.	現況分析単位 (学部・研究科等)	頁数	誤	正	修正事由
01		p.1	世界をリードする研究進めている。	世界をリードする研究 <u>を</u> 進めている。	脱字があったため
02		p.2	…研究不正、ハラスメント、セキュリティ等…	…研究不正、ハラスメント、セキュリティ等… (赤字削除)	衍字があったため
03		p.2	第2期に開始した機構の組織改革	第2期 <u>中期目標期間</u> に開始した機構の組織改革	脱字があったため
04		p.3	研究所の枠をこえた共同利用・共同の推進	研究所の枠をこえた共同利用・共同 <u>研</u> 究の推進	脱字があったため
05		p.4	共同利用・共同研究、国際、広報、産学連携	共同利用・共同研究、国際 <u>連携</u> 、広報、産学連携	脱字があったため
06		p.5	また機構本部の主導の下、	また、 <u>機</u> 構本部の主導の下、	脱字があったため
07		p.7	名古屋大学の共共拠点のセンターと	名古屋大学の共 <u>同利用</u> ・共 <u>同研究</u> 拠点のセンターと	脱字があったため
08		p.8	共共拠点である名古屋大学低温プラズマ科学研究センターと	共 <u>同利用</u> ・共 <u>同研究</u> 拠点である名古屋大学低温プラズマ科学研究センターと	脱字があったため
09		p.54	関連分野の研究機関と連携、客員で構成	関連分野の研究機関と連携、客員 <u>教員</u> で構成	脱字があったため
10		p.54	採択後代表者を PI として客員に採用	採択後代表者を PI として客員 <u>教員</u> に採用	脱字があったため

## 正誤表（達成状況評価）

11		p.55	機関・分野の枠を超えた共同研究・共同研究体制構築	機関・分野の枠を超えた共同 <u>利用</u> ・共同研究体制構築	誤字があったため
12		p.59	…継続する。 <u>また若手研究者を対象とした科研費に関する情報交換会(科研費カフェ)を開催する。</u> 基礎生物学研究所では…	…継続する。 <u>(削除)</u> 基礎生物学研究所では…	衍字があったため (次の段落に同じ文章があるため)
13		p.59	検討を行い、新たな研究	検討を行い、 <u>新</u> 新たな研究	読点の表記統一
14		p.63	発展に寄与している。また、	発展に寄与している。_____	衍字があったため
15		p.68	…共有し、 <u>多様な生物種を用いた共同利用・共同研究を</u> …	…共有し、 <u>多様な生物種を用いた共同利用・共同研究を</u> …(「多」に <u>下線を付ける</u> )	下線が 1 文字引かれていないため
16		p.69	核融合研究所では、	核融合 <u>科学</u> 研究所では、	脱字があったため
17		p.70	分野の <u>IP</u> となるべき研究者	分野の <u>PI</u> となるべき研究者	誤字があったため
18		p.83	変換・貯蔵、利用の	変換・貯蔵、 <u>利</u> 用の	読点の表記統一
19		p.84	名古屋大学の共共拠点のセンターと	名古屋大学の共 <u>同利用</u> ・共 <u>同研究</u> 拠点のセンターと	脱字があったため
20		p.85	共共拠点である名古屋大学低温プラズマ科学研究センターと	共 <u>同利用</u> ・共 <u>同研究</u> 拠点である名古屋大学低温プラズマ科学研究センターと	脱字があったため
21		p.87	分野の <u>IP</u> となるべき研究者	分野の <u>PI</u> となるべき研究者	誤字があったため
22		p.87	「大学連携研究設備ネットワーク	「大学連携研究設備ネットワーク <u>」</u>	脱字があったため (括弧閉じ (」) の不足)

## 正誤表（達成状況評価）

23		p.88	「大学連携研究設備ネットワーク	「大学連携研究設備ネットワーク」	脱字があったため (括弧閉じ (」) の不足)
24		p.90	分野の <u>IP</u> となるべき研究者	分野の <u>PI</u> となるべき研究者	誤字があったため
25		p.90	国立大学を中心に全国の 77 機関が	国立大学を中心に全国の <u>77</u> 機関が	実績報告書作成要領に沿った 表記とするため
26		p.90	「大学連携研究設備ネットワーク	「大学連携研究設備ネットワーク」	脱字があったため 括弧閉じ (」) の不足
27		p.91	分野の <u>IP</u> となるべき研究者	分野の <u>PI</u> となるべき研究者	誤字があったため
28		p.91	「大学連携研究設備ネットワーク	「大学連携研究設備ネットワーク」	脱字があったため 括弧閉じ (」) の不足
29		p.94	…に発表する機会も与えられており、本 制度は優秀な大学院生育成の大きな助 けとなった。 基礎生物学研究所は…	…に発表する機会も与えられており、 本制度は優秀な大学院生育成の大きな 助けとなった。 <u>基礎生物学研究所は…</u>	新しい段落の字下げを行って いなかったため
30		p.99	多くの学生が海外で実施される国際会 議等へ参加させ、海外経験を積ませた。	多くの学生 <u>を</u> 海外で実施される国際会 議等へ参加させ、海外経験を積ませた。	誤字があったため
31		p.109	直接経費の 30% にあたる	直接経費の <u>30%</u> にあたる	実績報告書作成要領に沿った 表記とするため
32		p.115	併任と同等の身分が付与され、た。	併任と同等の身分が付与さ <u>れた</u> 。	衍字があったため
33		p.119	当該研究員年俸制度を適用し、	当該研究員 <u>に</u> 年俸制度を適用し、	脱字があったため
34		p.119	…開催に関する <u>る</u> 議論と情報共有を重ね …	…開催に関する <u>る</u> 議論と情報共有を重ね … (「る」の下線を外す)	余分な下線が引かれていたた め

## 正誤表（達成状況評価）

35		p.119	…公募では若手外国人研究者の雇用を 検討することで、優秀な人材確保に努め た。	…公募では若手外国人研究者の雇用を 検討することで、優秀な人材確保に努 めた。  (下線を「若手外国人研究者の雇用を 検討することで、優秀な人材確保」に引 く)	下線がずれていたため
36		p.124	クレジットカードによる支払い可能に した。	クレジットカードによる支払いを可能 にした。	脱字があったため
37		p.125	これらの取り組みは、来訪外国人	これらの取り組みは、 <u>来</u> 訪外国人	読点の表記統一
38		p.125	…事業費を拠出して 201729 年度より 開始した。機構間連携・異分野連携研究 プロジェクトとして、201729 年度に 4 課題（機構間連携に向けた研究のフィジ ビリティ・スタディ 4 件）、201830 年度 に 5 課題（共同研究 2 課題、スタートア ップ 3 課題） …	…事業費を拠出して <u>2017</u> 年度より開 始した。機構間連携・異分野連携研究プ ロジェクトとして、 <u>2017</u> 年度に 4 課題 （機構間連携に向けた研究のフィジビ リティ・スタディ 4 件）、 <u>2018</u> 年度に 5 課題（共同研究 2 課題、スタートアッ プ 3 課題） …	衍字があったため